

令和元年度第4回

すぎなミーティング報告書(令和2年1月25日開催)

「あと数メートル広げれば助けられる“命”がある」

～狭あい道路の拡幅(かくふく)について考えよう～

日頃区政との接点が少ない区民の方々を含め、幅広い区民の皆さんから、区の抱える行政課題についてのご意見を区長が直接伺う機会として本事業を実施しています。

無作為抽出した 2,000 名の中から、希望された方にご参加いただき、「狭あい道路の拡幅」をテーマに話し合いました。



最初に担当者から説明しました

●狭あい道路とは？

建築基準法に定められた幅 4 メートル未満の“狭い”道路のことです。現状のまま、狭あい道路に面した土地で建物を新築したり、建て替えたりすることはできず、道路の中心から 2 メートルまで後退することが必要です。区内では、道路延長 1,045 キロメートルの約 3 割の 330 キロメートルが狭あい道路となっています。

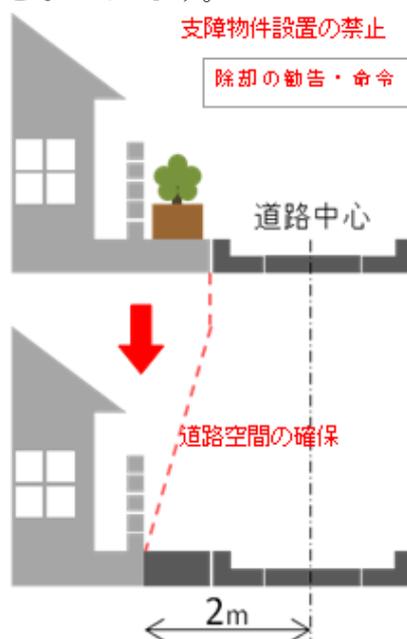


●狭あい道路の問題点とは？

道路が狭く、電柱などが支障になり、災害時の緊急車両の通行や避難・救助、ごみ収集車や高齢者の介護車両などの円滑な通行が困難になっています。また、家屋や塀が後退しても、その後退用地にプランターや自動販売機、車両などが置かれているケースもあり、交通の支障となっています。

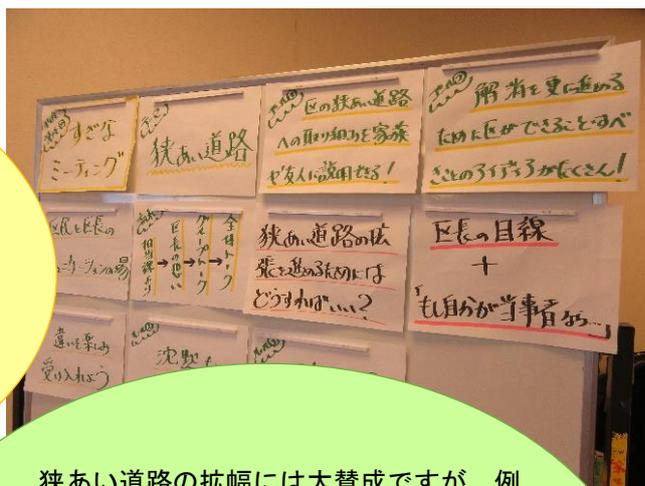
●これまでの区の取り組みは？

区は、年間整備目標を 10,000 メートルとして、狭あい道路の拡幅整備を進めています。塀などが後退した用地に支障物件を置かない、置かせないという意識の醸成を図るとともに、電柱事業者と連携し、突出電柱の 100 パーセントの移設を目指しています。



参加者の主なご意見

区の職員が道路を広げることにちょっと必死すぎませんか？と思っていましたが、今日改めて話を聞いて、狭あい道路の話は、誰かの命を助けるために重要なことだと思いました。



狭あい道路の拡幅には大賛成ですが、例えば重点地区で区が一部所有権の買い取りをして、道路位置を明確にしていくとよいと思いました。

また、建て替えのできない狭小住宅を区が支援して、何戸かがまとまって共同住宅として建て替えることで、道路を広げることができないかと考えました。



ごみ収集やデイサービスの送迎、いざ、地震や火事が起きた時に、狭あい道路を拡幅することで、助かる命があるということに気づきました。このことは、今後長い目で見た時に子どもたちも一緒に考えていく必要があるのではないかと思います。



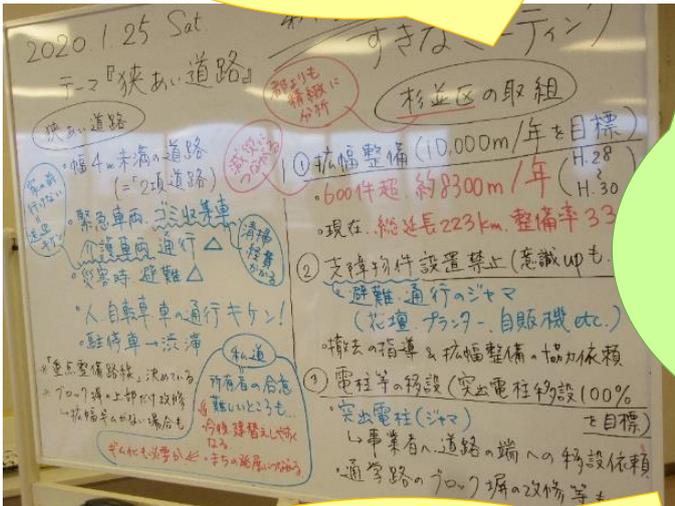
セットバックは決して損ではないと思いました。地域がそれにより住みやすく、人々の暮らしが良くなるということにつながるからです。住民として良くなることに喜びを持ちたいと思いました。



住民の方の理解を求めるには、具体的な成功例などを提示して、セットバックのメリットを説明すると同時に、デメリットの面も説明していくことが必要だと思いました。



私たちの空を取り戻そうという大きな理念で、無電柱化を進めることも我々が次世代につなぐ目標にしていきたいと思います。狭あい道路の完成形に無電柱化を含めてほしいと思います。



木密地域の狭あい道路の拡張が一番の課題だと思います。建ぺい率、容積率の緩和措置も有効と思いましたが、小さい土地の問題の解消のため、区が土地をまとめていくなど、100年後の姿を思い浮かべながらまちづくりをしてほしいと思います。



区民の皆さんに知ってもらうため、ユーチューブの広告などを活用し、そこから区民一人一人の意識を高めていくのが大事なのではないかと思います。



区長の思い！

●シミュレーションで見えること

杉並区が実施した地震被害シミュレーションでは、減災対策をしっかり行うことで被害が大きく軽減をされることがわかりました。

そして、狭あい道路が集中している地域と、火災が発生した時の被害の大きい地域は、まさに重なり合っていることがよくわかり、狭あい道路拡幅などの取組が、いかに大切か改めて確認できました。



●日常的な生活にも影響

この10年20年で、デイクア等の送迎車の数が増えています。しかし、道路が狭く玄関にその送迎車がつけない場合、お年寄りを送迎車が通れる道まで誘導することとなり、これが少なからず危ない状況を作り出しています。今後、高齢の単身世帯が急速に増えると見込まれる中、救急車や介護車が玄関前に駐車できるかどうか、大きな生活上の問題であると考えています。

また、警察と区が連携し、通称「青パト」を24時間走らせてまちの安全を見守っていますが、狭あい道路の多い地域では車が入れないので、空き巣などの犯罪に対するけん制力は弱くなってしまいます。ごみの回収では、通常は2トンのパッカー車（ごみをいれると圧縮して運ぶ車）を使いますが、狭あい道路には入れないため、そうした地域では軽トラックを使わざるを得ません。パッカー車には、2人で作業する軽トラックの5台分のごみが入ります。一方、パッカー車は3人で作業していますので、軽トラック10人の人手がパッカー車では3人で済むことになり、狭あい道路を広げれば清掃経費が節減できるという効果もあります。

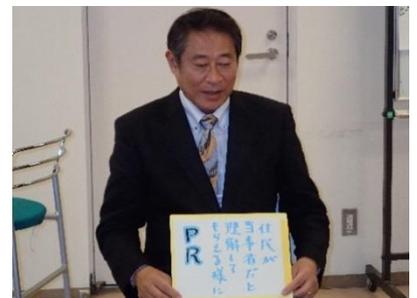
●先人に学ぶ

道路整備の視点から区内で比較的安全と言えるところは、北部の井草、下井草、上井草、清水、桃井、今川あたりです。今から85年ほど前に、この地域で区画整理事業が行われました。この事業は、当時の井荻村の内田秀五郎村長という立派な先人が、リーダーシップを発揮して、碁盤の目のように整然とした道路を整備したことで、今日の良好な住宅街として発展し、安全・安心を作り出しているわけです。

杉並区をより安全なまち、住みやすいまちにするための努力をして、次の世代、その次の世代と引き継いでいく、いつの時代でもその責任をきちんと果たしていくことが、私は大切なことだと思っています。

●当事者意識が大事

狭あい道路に面していても、自分が当事者であるということを理解していない方が、まだ多くいらっしゃるのではないかと思います。本日、皆さんの意見を伺って、これからもいろいろな機会を捉えて、こういう施策、事業を進めているということをしっかりPRしていくことが、一番重要だと思いました。



令和元年度第4回すぎなミーティング報告書

・開催日 令和2年1月25日

・参加者 区民：10名

区関係者：区長、狭あい道路整備課長ほか

令和2年3月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111